▲子育て中だからこそ共感できる意見が飛び交いました

市子育て世代包括支援センター ×九大×市民

分かりやすい子育て情報の発信を目指して

九州大学との共同研究の一環として、市公式ホームページ「こどもの国」での子育て情報の発信手法について、子育て中の市民と一緒に考えるワークショップを６月２日に開催しました。

子育て中に実際に困ったことなどを参加者が発表し、それらを解決するために役立つ情報を発信するため、現在のホームページをどのように改善すればよいかグループワークを行いました。

「市子育て支援アプリとの情報連携」や「父親向けコーナーの新設」など、子育て中の皆さんならではのさまざまな提案をいただきました。

世界遺産登録5周年記念講座と遊覧ツアー

世界遺産を学び感じる

世界遺産登録5周年記念講座「瀬戸内航路の神々と倭王権 -住吉・大山祇・宗像 -」が7月16日にカメリアホールで行われました。講師の今城塚古代歴史館前特別館長の森田克行さんから、豊富な知識に基づいた話があり、約70人の聴衆からは、時折、感嘆の声が漏れていました。

また、7月18日には勝浦小学校6年生の児童12人が高速船に乗って沖ノ島近海に行く「沖ノ島スペシャル遊覧ツアー」を開催。児童たちは「授業で習った沖ノ島を間近に見て感動した」と、神秘的な沖ノ島に見入っていました。

▲もやのかかる沖ノ島を撮影する児童

MIYA-JICK2022

久しぶりのミサンガの生歌

ロックフェスティバルMIYA-JICK2022が、7月17日から2日間に渡って宮地嶽神社で行われました。18日には市の親善大使であるミサンガが登場し、市のイメージソングなどを披露しました。コロナ禍で久しぶりの生歌だったこともあり、はつらつとした歌声で会場を大いに盛り上げてくれました。

▲久しぶりの生歌で会場を盛り上げるミサンガ

ラブアース・クリーンアップ2022 in ふくつ

マイクロプラスチックの多さに驚き

新型コロナウイルス感染症の影響を受けて中止されていたラブアース・クリーンアップを6月19日、3年ぶりに開催しました。親子3人で参加した倉成秀幸さんは「マイクロプラスチックが思ったより多いので、来年参加するときには道具を考えないといけない」と話していました。

▲親子3人で参加した倉成美羽さん（左）と景子さん

派遣型救急ワークステーション運用開始

地域の救急の質を高める

宗像水光会総合病院と宗像地区消防本部は、6月6日から派遣型救急ワークステーションの運用を始めており、7月5日にその開所式を行いました。病院に待機する宗像地区消防本部の救急隊員と、宗像水光会総合病院の医師が連携して病院搬送前の救急活動に当たり、救命率の向上を図ります。

▲日頃からの連携強化が迅速な医療の提供と搬送につながります

郷育カレッジ開校20周年記念イベント

「みらいへ翔け」

郷育カレッジ開校20周年記念イベントを7月16日に市中央公民館で開催。書道家坂下燁風さんと、坂下さんの書道教室に通う子どもたちによる書道パフォーマンスが行われ「祝20周年　郷育カレッジ～未来へ翔け～」「みらい」「飛翔」の文字を書き、会場は大きな拍手で包まれていました。

▲4歳から中学生までの子どもたちが書道パフォーマンスを披露

福＝福間　南＝福間南　津＝津屋崎　上＝上西郷　勝＝勝浦　宮＝宮司　神＝神興　東＝神興東　※郷づくり地域

発行月に1歳の誕生日を迎える赤ちゃんの写真を募集しています。掲載を希望する人はプリントした写真を子育て支援センターなかよしに持参するか、市公式ホームページでも受け付けています。持参の場合、写真はプリントしたものに限ります。データの持ち込みは受け付けられません。

毎号先着24人で、11月生まれの赤ちゃんは9月20日（火）が受付期限です。

受付、問い合わせ　市子育て支援センターなかよし（ふくとぴあ）☎35・8382

休館日　月曜日、第2土曜日とそれに続く日曜日、祝日

▶写真申込フォーム

勝浦小学校4年生のごみ学習

生活と切り離せない「ごみ」

勝浦小学校４年生を対象にしたごみ学習を6月9日に行いました。児童たちは、市うみがめ課の職員や津屋崎清掃社のかたから市内のごみ処理の説明を受けた後、実際にごみ収集車を使ったごみ収集も体験。清掃社のかたに、事前にしっかりと考えてきた、たくさんの質問をしていました。

▲間近に見るごみ収集車に大喜びでした

神興小学校の児童と韓国の児童が国際交流

自分の世界を広げよう

神興小学校の6年生と、韓国にあるダンソ小学校４年生とのオンライン交流が6月27日に行われました。児童たちは、タブレットや自分で描いた絵を見せながら、好きなスポーツや食べ物などを伝えました。言葉はインターネットで互いの言語に翻訳され、言語の枠を超えた交流を児童たちは楽しんでいました。

▲タブレットの画面を見せながら笑顔で語りかける児童